



作曲のお願いと、著作権などについて。

2020年まで、作曲のための、掲載歌詞の利用は無料です。年金生活者ですので、作って頂いても、まったくの無料ボランティアとなります。が、ユーチューブへのアップ、試聴用CDなど、どうぞ宜しく。納得のいく曲が出来れば10年後に、アルバムを自主制作する予定です。著作権の保護は、作詞・作曲など、それぞれに帰属し、担当部分を適切な方法で明示します。将来、著作権料が発生したときは、ジャスラックの規定の割合で、それぞれに帰属します。また、プロの方でも気に入って下さった方があれば、ヤフー・ブログ「ハーブの名歌」・ゲストブック・内緒チェック、にまでご連絡を。なお、この曲を、初音ミクや鏡音リンなどのボーカロイドに歌って欲しいのです。ノウハウのある方、ぜひお願いします。2020年末まで、許可不要（演奏・歌唱なども）ですので、宜しくお願いいたします。

枯葉のころ

枯葉のころ

* 2 0 0 6

秋は寂しすぎる 私を残して
ある日遠くに行ってしまった人
公園の枯葉見つめ 虚しさに生きる私
白い服きて街をさまよう
すぎるものない私に似て
風に舞う枯葉

秋は寂しすぎる よわい私に
ガラスの涙熱くこぼさせる
風にゆれるコスモスに 遠い思い出の私
秋の光にはなやぐ指輪
すぎるものない私捨てて
夢を追った人よ

秋よおまえは悲しい季節
虚しくて絶え間ない
別れの物語

黄昏の街

「黄昏の街」

黄昏に染まる秋の坂道で
今日も待っている
長い髪の少女
悲しい眼をしてほほ杖ついて
帰らぬひとを待ち続けている
二度と逢えないやさしい笑顔
また燃えてゆくつらい炎

黄昏に染まる秋の坂道で
今日も待っている
青い服の少女
思い出抱きしめ星をみつめて
帰らぬ人にじっと耐えている
二度と逢えない海を映す瞳
すべて消えゆく街にひとり

黄昏に染まる秋の坂道で
今日も待っている
長い髪の少女
長い髪の少女

トワイライト＊TOKYO

「トワイライト☆TOKYO」

黄昏に 君を想う
街角で 空を上げば
紅い灯 青い灯 星がうるむよ
いま叫ぶ あの日別れた 面影が
上野 浅草 ほらスカイツリー
夕焼けに 時を想う
帰らない 時を想う

群青の 空を見つめ
さまよえば 遠い街の灯
キラメキ またたき 花は散りゆく
行き過ぎる 人に探すよ 面影を
渋谷 原宿 夜の新宿は
ビルの灯に 時を想う
帰らない 時を想う

黄昏に 君を想う
人は何故 いつか別れて
めぐるよ 季節は いちずな涙
優しげな 夢を追いかけて 歩く街
目黒 赤坂 路地の六本木
店の灯に 時を想う
帰らない 時を想う
ラララララ ラララララ
ラララララ ラララララ-----

水色の黄昏に

「水色の黄昏に」

雪どけ道をゆくひと 送った日から
寂しさだけを 見つめています
最後の恋に 賭けた春の日
福寿草ゆれるたそがれ
なぜか言葉を なくしています

かすかに聞こえてくるよ さすらいの唄
夢はほのかに 優しく消えて
すこしあなたを 忘れてゆける
南天の実こぼれ落ち
なぜか望みを なくしています

窓辺に春の光 ゆれて華やぎ
燃えるシクラメン 見つめています
嘆きのこころ さえ美しく
めくるめく日々の終りか
なぜか水色 すべてを染める
なぜか水色 過ぎし日染める

薔薇のシェリー酒は

青空がまぶしい瞳に痛い

夏は過ぎてゆくのに あの人は来ない

ゆめのなかだけに恋の影を 追いかける私ね

青いゆめのなか いつまでも覚めないで

夏の日の恋は 忘れられない

緑の海原が瞳に痛い

今年も夏は過ぎて あの人は来ない

庭のヒマワリ飾ってみても 果てしない嘆きは

夢よこのまま いつまでも覚めないで

夏の傷跡は 忘れられない

愛について何も語らず あなたは行ってしまふ

青い涙ゆれ ときめきは彼方に

夏の出来事は 海原鳴りの果て

夏の出来事は 海原の果て

幻の秋～愛のプリズム

1. *ちいさな夢は消えて

*秋がわたしにまためぐりくる
夢はどこから生まれて
どこに消えてゆくのか
秋は青い海さみしく
キラメキがわたしを惑わせる

2. **くり返し

いまははるかに遠く住むひと
優しげな風に吹かれ
涙ぐむわたしよ
コスモスの花に祈るよ
むなしさがわたしを惑わせる

秋は青い海はかなく
キラメキがわたしを惑わせる
思い出がわたしを打ちのめす

ソナタ 江ノ島の薔薇は紅く

江ノ島は青い海 白き帆走しる
ときめきは知らず 窓辺の薔薇の翳り はかなき心

君去りてひとり 光降る 渚にたてば
帰り来ぬ日の 美わしきまぼろし うず潮の果て

江ノ島は遠い海 緑濃き夢の島 誰がため祈る
海の神様 いまは帰らぬ はるかなる夢

黄昏は虹色の薔薇

別れたくない人だけど 別れはくると人はいう
悲劇の私になるまえに 涙も枯れてしまうかも
別れの朝にいう言葉 さよならいっても 駄目になる
思い出が踊るよな恋 黄昏の五月の光

きらきら光る痛みにも 似てる素敵に秋の海
薔薇の花が枯れるよに 崩れゆく砂の城
海原をゆく船遠く 私だけが哀しいか
別れてしまえばお互いに 織成す恋も色あせて

人の世の空しさが迫る 別れはどうせ突然で
たちきる恋の絆さえ ボンヤリしているその内に
甘い痛みで酔えるもの ボンヤリしてるその夢
めくるめくまで酔えるものか ガラスの薔薇はくずれゆく

ひと、懐かしき唄を

五月の朝のように 爽やかで
五月の昼のように きらめいて
美しく眩しい 思い出をときの中に
光のなかに閉じ込めて
淋しすぎることもなんか 青葉を照らす陽のもとで
忘れてしまいたい つらい思い
さらば五月の光 さらば五月の光

五月の野辺は晴れて うるわしく
五月の野辺は青く 花ざかり
懐かしく果てない 物語は永久に
光りのなかに閉じ込めて
華やかな昔がたり 若草照らす陽のもとで
忘れえぬ面影 つらき日々よ
さらば愛しきひとよ さらばさらばさらばよ

黄昏の窓辺に

青空がまぶしい眼に痛い
夏は過ぎてゆくのに あの人は来ない
ゆめのなかだけに恋の影 追いかける私
青いゆめのなか いつまでも覚めないで
夏の日のこと忘れられない

緑の海原が眼に痛い
今年も夏は過ぎて あの人は来ない
庭のヒマワリ飾ってみても 果てしない嘆き
夢よこのまま いつまでも覚めないで
夏の傷跡忘れられない

ほんとうの愛を何も知らない 行ってしまうあなた
青い涙ゆれ ときめきは彼方に
夏の出来事海原の果て

黄昏に、夢みる日

雪どけ道をゆくひと送った日から
寂しさだけを見つめています
最後の恋に賭けた春の日
福寿草ゆれるたそがれ
なぜか言葉をなくしています

かすかに聞こえるさすらい人の唄よ
夢はほのかに優しく消えて
すこしあなたを忘れてゆけるようです
南天の実の零れ落ち
なぜか望みをなくしています

窓辺に春の光ゆらめき華やぎ
燃えるシクラメン見つめています
嘆きのこころさえ美しく
めくるめく日々の終り
なぜか黄昏すべてを染める
夢のつづきを染めてゆく

幻の秋

ちいさな夢は消えて
秋がまためぐりくる 私に
青い海の泡のように
ゆれて消えてゆく
秋の海はさみしく
夕暮れに燃えてきらめく
ああ いまは遥かに遠い人よ

私を惑わせるよ
あの子の優しさが 私を
コスモスの花に祈るよ
嵐の夜には
秋の夢はさみしく
夕暮れに燃える山並み
ああ いまは遥かに遠い人よ

後れ毛を撫でて行く
夕風にゆれる星屑
ああ 霧の彼方に消えた人よ

枯葉のころ☆オータム・ブルー

枯葉のころ

秋は寂しすぎる 私を残して
ある日遠くに行ってしまった人
公園の枯葉見つめ 虚しさに生きる私
白い服きて街をさまよう
すぎるものない私に似て
風に舞う枯葉

秋は寂しすぎる よわい私に
ガラスの涙熱くこぼさせる
風にゆれるコスモスに 遠い思い出の私
秋の光にはなやぐ指輪
すぎるものない私捨てて
夢を追った人よ

秋よおまえは悲しい季節
虚しくて絶え間ない
別れの物語

若草のころ

銀色の雪がとけて 青い河に流れる
若草の春はまためぐり来たの
幸せ求め旅にでたあなた
あの日の誓い いまはむなしく
流れる涙 過ぎてゆく季節
帰ってほしいのあなただけは
青春をかけたひとだから

白い忘れな草咲き スミレもささやくよ
花は今年もまためぐり咲いたの
いまは遠い国に住むという
あなたは何処に わたし忘れて
今日もひとりで 花を抱く季節
帰ってほしいのあなただけは
わたしは今日もひとりひとり

いまははるかに 遠く住むひとよ
優しい春風に吹かれ
むなしさがわたしを惑わせる

黄昏☆トワイライト

黄昏に染まる秋の坂道で
今日も待っている
長い髪の少女
悲しい眼をしてほほ杖ついて
帰らぬひとを待ち続けている
二度と逢えないやさしい笑顔
また燃えてゆくつらい炎

黄昏に染まる秋の坂道で
今日も待っている
青い服の少女
思い出抱きしめ星をみつめて
帰らぬ人にじっと耐えている
二度と逢えない海を映す眼
すべて消えゆく街にひとり

二度と遭えないやさしい笑顔
黄昏の街ひとり歩く